

【様式2-1】 平成27年度部局目標(畜産技術振興センター)

個別目標

番号	区分 ※	目標項目	目標設定の理由	目標値・目標の内容	目標達成に向けての手段等	基本構想に係る 実施計画の 関連箇所	担当課
1	①	近江牛の生産基盤の拡大	当センターで生産された雌子牛を繁殖農家に譲渡し、近江牛の生産基盤の継続的拡大を図る必要があります。また、県内繁殖牛の遺伝的能力改良を進め、その生産性の一層の向上を図る必要があります。	子牛生産頭数 100頭 子牛育成技術の向上6月齢体重 雄:210kg以上 雌:180kg以上	・育種価評価を活用し、繁殖牛の計画的な淘汰更新を行うとともに、主産地からの高能力繁殖素牛導入により繁殖雌牛群の遺伝的能力の向上を図ります。 ・「超早期母子分離飼育」技術を基本に飼養管理を見直し、分娩間隔の短縮と子牛の生産効率の向上を図ります。 ・現状の子牛の発育を維持するとともに、マニュアル化した飼養管理方法の県内普及を目指します。	5-1	畜産課
2	①		受精卵移植技術を活用した乳用牛による和牛生産を推進し、酪農経営体を近江牛生産基盤の一つとして拡大、定着を図るとともに、酪農家の副収入を増加させることにより、県内畜産農家の経営安定を図る必要があります。	和牛受精卵供給個数100個 受胎率 45%	・育種価評価を基に遺伝的に優良な受精卵の効率的な生産を行います。 ・肥育素牛として市場性の高い受精卵を供給します ・採卵計画の周知を徹底し、受胎率が高いとされる新鮮卵移植の機会を増やします。	5-1	畜産課
3	①		耕作放棄地等の草資源を積極的に活用し、繁殖雌牛の畜舎増設を伴わない増頭を図る必要があります。	放牧地における分娩管理と子牛哺育育成技術を確立します。	・場内に設置した放牧地において、繁殖雌牛を放牧し、分娩させます。 ・分娩後、柵越哺乳やロープ誘導等の馴致技術の検討を行います。	5-1	畜産課

4	①	飼料の県内自給の強化	生米ぬかや飼料用米などの水田由来の自給飼料の乳用牛および肉用牛への給与方法を検討し、県内飼料自給率の向上に繋がる効率的な活用方法を確立する必要があります。	①生米ぬかと玄米により飼料自給率を高めた飼料給与によるの肉量、肉質への影響を検証します。 ②乳用牛における稲WCS、玄米の多量給与による産乳量、乳質への影響を検証します。 ③肉用牛、乳用牛における飼料用米給与の普及を図ります。	①生米ぬか、玄米により飼料自給率を65%まで高めた飼料を肉用牛に給与し、給与の影響を飼料摂取量、増体、枝肉成績の調査および肉の理化学分析を実施することで検証します。 ②乳用牛の各泌乳期の稲WCS・玄米を多給し、産乳量、乳質への影響を検証します。 ③牛への水田由来自給飼料給与技術について資料を作成し、農家現場での技術指導に活用します。	5-1	畜産課
5	①		輸入飼料に依存した畜産から国産飼料に立脚した畜産への転換が求められています。そこで、水田を基盤とした飼料の県内自給率の向上が必要となっています。	生稲わらサイレージ調製技術を確立します。	フィールドでの技術実証を踏まえ、生稲わらのサイレージ調製過程でβ-カロテン含量をコントロールする技術の確立を行います。	5-1	畜産課
6	①	肉用牛の生産性向上	肉用牛経営の安定のため、繁殖成績を向上する必要があります。	分娩間隔目標 ②繁殖和牛13.5ヵ月 (H26成績：13.8ヵ月)	・関係機関と協力し、定期繁殖検診を実施し、繁殖障害牛の早期発見早期治療を指導するとともに、発情発見方法および飼料給与方法等の飼養管理技術について指導します ・生産者の技術向上を目的とした飼養管理技術に関する研修会を開催します。	5-1	畜産課

※「区分」欄は、新たに策定する「行政経営方針」に定める以下の3つの基本的な視点から該当する番号を入力してください。

①:「攻め」の視点

- ・「最少の経費で最大の効果」が得られるよう、高いコスト意識を持ち、無駄の排除、選択と集中を徹底し、「滋賀ならではの」「滋賀から」「滋賀のために」を実現する視点
- ・本県の強み・弱み、現場のニーズ、地域ごとの課題等を把握・分析した上で、あるべき姿を明確にし、「実施」だけでなく「結果」を重視した、次につながる視点

②:「見える」の視点

- ・情報の受け手側が求める情報をわかりやすく、タイムリーに発信し、県政の一層の透明化を図るとともに、対話を通じて、県政への理解と共感を得ることに努め、県民にとって身近で、見える視点

③:「前向き」の視点

- ・人員や財源に限られた中であっても、人材や組織、施設、情報など県の経営資源の質を一層高め、有効活用や効果的・効率的な配分を図ることなどにより、県庁力が最大限発揮される視点
- ・前例踏襲ではなく、チャレンジ精神や創意工夫を発揮しながら、目標や使命の達成に向けて、スピード感、グローバルな視点を持って、果敢に取り組む視点

④:その他 ①～③以外のもの